

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4915537号

(P4915537)

(45) 発行日 平成24年4月11日(2012.4.11)

(24) 登録日 平成24年2月3日(2012.2.3)

(51) Int.Cl. F I
B 6 0 J 3/00 (2006.01)
B 6 0 J 3/00 H
B 6 0 J 3/00 G

請求項の数 12 (全 9 頁)

(21) 出願番号	特願2008-527305 (P2008-527305)	(73) 特許権者	591018763
(86) (22) 出願日	平成18年8月24日 (2006.8.24)		ベバスト・アクティエンゲゼルシャフト
(65) 公表番号	特表2009-505877 (P2009-505877A)		ドイツ連邦共和国、8 2 1 3 1 シュトッ
(43) 公表日	平成21年2月12日 (2009.2.12)		クドルフ、クライリンゲルシュトラーセ
(86) 国際出願番号	PCT/DE2006/001485		5
(87) 国際公開番号	W02007/022769	(74) 代理人	100083116
(87) 国際公開日	平成19年3月1日 (2007.3.1)		弁理士 松浦 憲三
審査請求日	平成20年3月18日 (2008.3.18)	(72) 発明者	アンドレアス ロケルマン
(31) 優先権主張番号	102005040758.7		ドイツ連邦共和国 8 1 2 4 9 ミュンヘ
(32) 優先日	平成17年8月26日 (2005.8.26)		ン、ディートリッヒシュタインシュトラ
(33) 優先権主張国	ドイツ (DE)		セ 3 a
		(72) 発明者	セバスティアン グラスル
			ドイツ連邦共和国 8 1 5 4 9 ミュンヘ
			ン、シュヴァンジーシュトラーセ 6 5 a

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ローラブラインド装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

少なくとも1つのローラブラインドウェブ(10)と、前記ローラブラインドウェブ(10)を巻き取りかつ巻き出すための少なくとも1つの巻取チューブ(12)とを備えた、ローラブラインド装置であり、

前記ローラブラインドウェブ(10)は、両側方の境界部領域と、前記両側方の境界部領域の間の本体部領域と、を有し、

前記両側方の境界部領域のそれぞれは、前記ローラブラインドの延在方向に沿って延在しかつ案内(20)内を案内される、少なくとも1つの案内要素(18)を有し、

前記案内(20)は前記ローラブラインドウェブ(10)の巻き出し方向に沿って延在する開口部を有し、前記ローラブラインドウェブ(10)の前記少なくとも1つの案内要素(18)は前記案内(20)内から前記ローラブラインドウェブ(10)の巻き出し方向に直交する方向に前記開口部を介しては外に出ることができない形で前記案内(20)内を前記ローラブラインドウェブ(10)の巻き出し方向に沿って案内され、

前記少なくとも1つの案内要素(18)が、前記ローラブラインドウェブ(10)に対するスリップを防止するよう、少なくとも1つの第1の縫い目(30)により前記ローラブラインドウェブ(10)の前記両側方の境界部領域内で前記ローラブラインドウェブ(10)に固定されることを特徴とするローラブラインド装置。

【請求項 2】

前記両側方の境界部領域に沿った前記ローラブラインドウェブ(10)の両側方の外縁

10

20

部（２２）のそれぞれが、前記ローラブラインドウェブ（１０）の前記本体部領域の方に折り返され、前記両側方の境界部領域のそれぞれは、前記少なくとも１つの案内要素（１８）が中に配置されたポケット（２４）を有する請求項１に記載のローラブラインド装置。

【請求項３】

前記両側方の境界部領域に沿った前記個々の外縁部（２２）が、少なくとも１つの第２の縫い目（３６）により、前記ローラブラインドウェブ（１０）に接続される請求項２に記載のローラブラインド装置。

【請求項４】

前記案内要素（１８）が、可撓性材料から形成される請求項１～３のいずれか一項に記載のローラブラインド装置。

【請求項５】

前記案内要素（１８）が、平らな材料から形成される請求項１～４のいずれか一項に記載のローラブラインド装置。

【請求項６】

前記案内要素（１８）が、その長さに沿って、前記案内要素（１８）の長手方向を横切る方向に多くの通路開口部（２８）を有し、前記第１の縫い目（３０）が、それぞれ、前記通路開口部（２８）及び前記通路開口部の反対側にある前記ローラブラインドウェブ（１０）の領域を通して進む請求項１～５のいずれか一項に記載のローラブラインド装置。

【請求項７】

前記第２の縫い目（３６）が、まず、前記個々の外縁部（２２）を前記ローラブラインドウェブ（１０）に接続し、第二に、前記案内要素（１８）の前記通路開口部（２８）及び前記通路開口部（２８）の反対側にある前記ローラブラインドウェブ（１０）の領域を通して進む請求項３～６のいずれか一項に記載のローラブラインド装置。

【請求項８】

前記第１の縫い目（３０）が、前記案内要素（１８）の前記通路開口部（２８）及び前記通路開口部（２８）の反対側にある前記ローラブラインドウェブ（１０）の領域を通して、かつ前記案内要素（１８）に隣接したローラブラインドウェブ領域を通して、前記第２の縫い目（３６）の反対側を進む請求項７に記載のローラブラインド装置。

【請求項９】

前記案内要素（１８ｃ）が、その長さに沿って、少なくとも１つの側方の窪み（３８ｃ）を有し、前記第１の縫い目（３０ｃ）が、前記少なくとも１つの窪み（３８ｃ）内を進み、前記少なくとも１つの窪み（３８ｃ）を直接覆う前記ローラブラインドウェブ（１０ｃ）の領域をつなげる請求項２に記載のローラブラインド装置。

【請求項１０】

前記案内要素（１８ｄ）に固締された多くの固締要素（４０ｄ）が、前記案内要素（１８ｄ）の長さを横切る方向に延在し、前記固締要素が、前記案内要素（１８ｄ）の側方に延在し、前記第１の縫い目（３０ｄ）が、前記多くの固締要素（４０ｄ）を前記ローラブラインドウェブ（１０ｄ）に接続する請求項１に記載のローラブラインド装置。

【請求項１１】

前記固締要素（４０ｄ）が、接着片を含む請求項１０に記載のローラブラインド装置。

【請求項１２】

前記案内要素（１８）が、プラスチック又は金属材料、又はこれらの両方の組合せから作製される請求項１～１１のいずれか一項に記載のローラブラインド装置。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本発明は、ローラブラインド装置、特に車両用のローラブラインド装置に関する。

【背景技術】

【０００２】

10

20

30

40

50

車両に使用されるローブラインド装置は、たとえば、透明な車体構造面の下のサンシェードとして、又はステーションワゴン内のトランクコンパートメント用カバーとして使用されている。この種の装置は、一般に、一方の端部で巻取チューブに巻き取られ、かつ巻取チューブの復元力により張力がかかる、ローブラインドウェブを有する。ローブラインドウェブの他方の端部は、通常、電気駆動装置により又は手で動かし得るテンションフレーム（tension bow）に固締されており、この結果、ローブラインドウェブは、これに応じて伸張される又は再び巻き取られる。

【0003】

しかし、この種のローブラインド装置のローブラインドウェブは、テンションフレームと巻取ローラとの間にのみ張力がかかった場合に（たとえこの方向の張力が比較的高くても）、たとえばルーフ開口部がローブラインドウェブにより一部分開放された場合に、ローブラインドウェブがばたばたと振動することがある。さらに、この種の実施形態の場合に、ローブラインドウェブの境界部に一般に存在する隙間は、見た目が余り良くないことがある。

【0004】

上記の欠点を克服するために、ローブラインドウェブの延在方向に沿ってだけでなく、これを横切る方向にも張力がかかる、ローブラインドシステムが公知である。

【0005】

このため、図1は、巻取チューブ12によって巻き取られかつ巻き出される、したがって2つの案内20、20に沿って移動可能な、ローブラインドウェブ10を備えた、従来のローブラインド装置を示している。巻取チューブ12は、車体構造に固定された軸受14、14を用いて回転可能に取り付けられ、巻取チューブと反対向きの、ローブラインドウェブ10の端部で、前記ローブラインドウェブがテンションフレーム16に固締される。個々の案内要素18、18が、ローブラインドウェブ10の両側の案内20、20内を案内され、ローブラインドウェブ10に接続され、また、これと共に巻取チューブ12に巻き取られ得る。この場合、両側の案内要素18、18は、ローブラインドウェブ10は開口部（図示せず）を通して案内20から出ることができるが、2つの案内要素18、18は出ることができないような形で、案内20、20内を案内される。ローブラインドウェブの幅と比べて、ローブラインドウェブ10の2つの外縁部22、22にある2つの案内20、20の間に適切な距離がある場合、ローブラインドウェブ自体に、たとえばローブラインドウェブがばたばたと振動することが回避されるような形で、延在方向を横切る方向に張力がかかり得る。これは、ローブラインドウェブ10が、車両ルーフの領域内のルーフ開口部への光を遮るよう役立ち、ルーフ開口部が一部分開放されて、通風がローブラインドウェブ10に当たり得る場合に特に好ましい。

【0006】

図2は、案内要素18を備えたローブラインドウェブ10を示す詳細図である。案内要素18は、可撓性の平らな材料を有し、この平らな材料18は、ローブラインドウェブ10から形成されたポケット24の中に配置される。この場合、ローブラインドウェブ10の側方の境界部領域に沿った外縁部22が、ローブラインドウェブ10の中央の領域の方に折り返され、次いで、外縁部22が、縫い目26によりローブラインドウェブ10に固締される。

【0007】

これにより、案内要素18が、ポケット24の中で自由に移動できるようになり、また所望の位置から変位できるようになるという問題が生じ、したがって、ローブラインドウェブを困難なく操作できなくなるという問題が生じる。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0008】

したがって、本発明の目的は、1つ又は複数の案内要素のスリップが回避される、改良されたローブラインド装置を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0009】

上記目的は、請求項1の特徴により達成される。本発明を改良するさらなる特徴は、従属請求項に含まれている。

【0010】

本発明は、ローラブラインドウェブに対するスリップを防止するよう、第1の縫い目によりローラブラインドウェブの側方の境界部領域内で、案内要素をローラブラインドウェブに固定するという概念に基づくものである。

【0011】

本発明のさらなる改良形態においては、側方の境界部領域に沿ったローラブラインドウェブの側方の外縁部が、ローラブラインドウェブの中央の領域の方に折り返され、この側方の境界部領域が、それぞれ、少なくとも1つの案内要素が中に配置されたポケットを有する。これは、案内要素が、ローラブラインドウェブの材料によって保護されるようになるという利点を有する。

10

【0012】

側方の境界部領域に沿った個々の外縁部が、少なくとも1つの第2の縫い目により、ローラブラインドウェブに接続されることがさらに好ましい。この利点は、ポケットが側方で閉じられるため、案内要素がさらに保護されることである。

【0013】

案内要素は、可撓性材料から形成されることが好ましい。これは、案内要素が、容易に巻取チューブに巻き取られ得る又は巻取チューブから巻き出され得るという利点を有する。

20

【0014】

案内要素は、平らな材料から形成されることがさらに好ましい。これにより、まず、巻取り操作及び巻き出し操作が容易となり、この結果、第二に、巻き取られた状態の案内要素に必要な空間が比較的小さくなる。

【0015】

案内要素は、その長さに沿って、案内要素の長手方向を横切る方向に多くの通路開口部を有することが好ましく、第1の縫い目は、それぞれ、通路開口部及び通路開口部の反対側にあるローラブラインドウェブの領域を通して進む。これは、第1の縫い目が案内要素により容易に案内され得るので、案内要素がローラブラインドウェブに固定されるという利点を有する。

30

【0016】

第2の縫い目は、まず、ローラブラインドウェブに個々の外縁部を接続し、第二に、案内要素の通路開口部及び通路開口部の反対側にあるローラブラインドウェブの領域を通して進むことがさらに好ましい。これは、縫い目が、側方でポケットを閉じ、案内要素を固定するという利点を有する。

【0017】

第1の縫い目は、案内要素の通路開口部及び通路開口部の反対側にあるローラブラインドウェブの領域を通して、かつ案内要素に隣接したローラブラインドウェブ領域を通して進むことがさらに好ましい。したがって、第1の縫い目により案内要素がさらに固定される。

40

【0018】

本発明のさらなる改良形態においては、案内要素は、その長さに沿って、少なくとも1つの側方の窪みを有し、第1の縫い目は、少なくとも1つの窪み内を進み、少なくとも1つの窪みを直接覆うローラブラインドウェブの領域をつなげる。

【0019】

本発明のさらなる改良形態においては、案内要素に固締された多くの固締要素が、案内要素の長さを横切る方向に延在し、前記固締要素は案内要素の側方に延在し、第1の縫い目が、多くの固締要素をローラブラインドウェブに接続する。この場合、案内要素は、通

50

路開口部又は窪みを有する必要がなく、これにより、ローラブラインド装置の生産及び組立が簡単なものになる。

【0020】

固締要素は、接着片を含むことがさらに好ましい。これは、ローラブラインド装置の生産及び組立を簡単なものにすることにさらに寄与する。

【0021】

本明細書においては、案内要素は、プラスチック材料又は金属材料、又はこれらの両方の組合せから作製されることが好ましい。

【0022】

以下、図面を参照しながら、本発明の実施形態についてより詳細に説明する。

10

【発明を実施するための最良の形態】

【0023】

図3は、案内要素18が中に配置された案内20を示す断面図であり、この案内要素18は、案内要素18の長手方向を横切る方向に通路開口部28を有する。案内要素18は、ローラブラインドウェブ10の側方の境界部領域によって囲まれ、ローラブラインドウェブ10は、ポケット24を形成する。図から分かるように、この側方の境界部領域は、案内要素18を中心として2回折り返される。参照符号32は、ここでは、ローラブラインドウェブを折り返すことによって作製された縁部である。参照符号22は、ローラブラインドウェブ10の外縁部である。

20

【0024】

縫い目30が、通路開口部28を通して、かつ通路開口部28の反対側にあるローラブラインドウェブ10の領域を通して進む。

【0025】

したがって、案内要素18が、まず、ローラブラインドウェブ10に固定され、第二に、ポケット24が、通路開口部28の反対側にある、即ち通路開口部28の「上」及び「下」にある、ローラブラインドウェブ10の領域をつなげる縫い目30によって固定される。

【0026】

図5は、図3に例示されている案内要素18を示す平面図である（案内20は例示されていない）。案内要素18は、ポケット24の中に配置され、このポケット24は、ローラブラインドウェブ10の側方の境界部領域を折り返すことによって形成される。折り返された縁部は、図5に参照符号32で例示され、ローラブラインドウェブ10の外縁部は、参照符号22で例示されている。

30

【0027】

案内要素18内の通路開口部28がはっきりと見える。通路開口部28は、ここでは矩形の開口部として例示されているが、たとえば、円形、楕円形、正方形などの、他の任意の形態も考えられる。通路開口部28の正反対にあるローラブラインドウェブ10の領域をつなげる縫い目30は、通路開口部28内を進む。例示されている例においては、縫い目30は、連続した縫い目である。即ち、縫い目は、1つの通路開口部28から次の通路開口部28へと「ジャンプする」。しかし、専用の縫い目が、それぞれの通路開口部28内を進み、隣接した通路開口部28の縫い目に接続されないことも考えられる。

40

【0028】

したがって、案内要素18は、ローラブラインドウェブ10に対するスリップを防止するよう、縫い目30によりローラブラインドウェブ10に永久に固定される。

【0029】

図5に例示されている例においては、案内要素18は、バネ鋼から構成される。しかし、たとえば、プラスチック又は材料の組合せなどの、他の材料も考えられる。

【0030】

図4は、本発明のさらなる実施形態を示している。

【0031】

50

ここでは、同一の要素は同じ参照符号によって識別されるが、区別するために、小文字によって識別される。

【0032】

図4は、案内要素18aが中に配置された案内20aを示す断面図であり、案内要素18aは、案内要素18aの長手方向を横切る方向に通路開口部28aを有する。案内要素18aは、ローラブラインドウェブ10aの側方の境界部領域によって囲まれ、ローラブラインドウェブ10aは、ポケット24aを形成する。

【0033】

縫い目30aが、通路開口部28aを通して、かつ通路開口部28aの反対側にあるローラブラインドウェブ10aの領域を通して進む。

10

【0034】

図6は、図4に例示されている案内要素18aを示す平面図である（案内20aは例示されていない）。

【0035】

図5とは異なり、ポケット24aは、外縁部22aを簡単に折り返すことによって形成され、外縁部22aは、第2の縫い目36aによりローラブラインドウェブ10aに接続される。

【0036】

図7は、本発明のさらなる実施形態を示している。

20

【0037】

この場合、縫い目36bが、まず、ポケット24bが形成されるよう外縁部22bをローラブラインドウェブ10bに接続し、第二に、縫い目36bがまた、これも通路開口部28bを通して進む縫い目36bによりローラブラインドウェブ10bに案内要素18bを固定する。案内要素18bをさらにもっと固定するために、通路開口部28bを通して、またローラブラインドウェブ10bの外部領域のローラブラインドウェブ材料を通して進む縫い目30bが、縫い目36bの反対側にある案内要素18bの側部を進む。

【0038】

図8は、本発明のさらなる実施形態を示している。

【0039】

この場合、図6及び図7に例示されている案内要素とは異なり、案内要素18cは、通路開口部を有さず、代わりに、側方の窪み38cを有する。個々の縫い目30cが、窪み38c内を進み、したがって、案内要素18cがローラブラインドウェブ10cに対してスリップするのが防止される。さらなる縫い目36cが、外縁部22cをローラブラインドウェブ10cに接続し、したがってポケット24cが形成される。

30

【0040】

図9は、本発明の別の実施形態を示している。

【0041】

この場合、ローラブラインドウェブ10dの側方の外部領域は、外縁部22dを折り返すことにより、ポケット24dを形成する。通路開口部又は窪みを有する必要がない案内要素18dが、ポケット24d内に配置される。固締要素40dが、互いに距離を隔てて案内要素18dに固締される。例示されている例においては、これらの固締要素40dは、接着層を有するプラスチック材料でできた片であり、この接着層は、案内要素18dの表面に接続される。しかし、固締要素は、案内要素18dを中心として折り返され得ることも考えられる。

40

【0042】

固締要素40dは、案内要素18dからやや離れて延在する。1つの縫い目36dが、外縁部22dをローラブラインドウェブ10dに、また固締要素40dをローラブラインドウェブ10dに接続する。したがって、固締要素40dが案内要素に固定接続され、固締要素40dが縫い目36dによりローラブラインドウェブ10dに固定されるので、案内要素18dは、ローラブラインドウェブ10dに固定される。

50

【図面の簡単な説明】

【0043】

【図1】従来のローラブラインド装置を示す概略図

【図2】図1に例示されている従来のローラブラインド装置を示す詳細図

【図3】案内要素の案内を示す詳細図

【図4】案内要素の案内を示す詳細図

【図5】案内要素をローラブラインドウェブに固定する実施形態を示す図

【図6】案内要素をローラブラインドウェブに固定する実施形態を示す図

【図7】案内要素をローラブラインドウェブに固定する実施形態を示す図

【図8】案内要素をローラブラインドウェブに固定する実施形態を示す図

【図9】案内要素をローラブラインドウェブに固定する実施形態を示す図

【符号の説明】

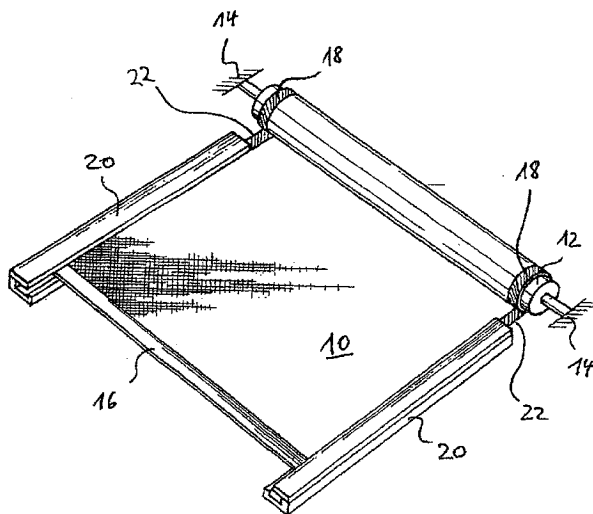
【0044】

10…ローラブラインドウェブ、12…巻取チューブ、14…車体構造に固定された軸受け、16…テンションフレーム、18…案内要素、20…案内、22…外縁部、24…ポケット、26…縫い目、28…通路開口部、30…縫い目、32…折り返された縁部、36…縫い目、38…窪み、40…固締要素

10

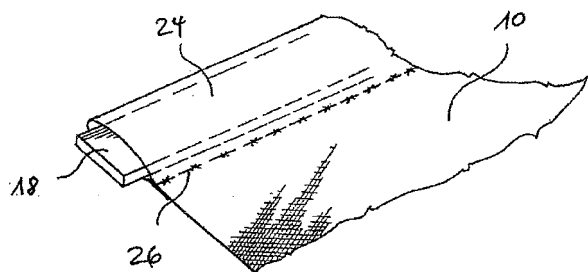
【図1】

先行技術

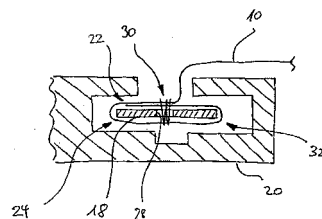


【図2】

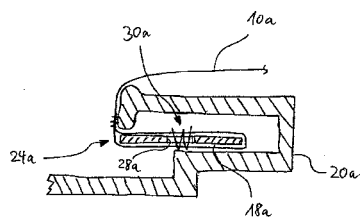
先行技術



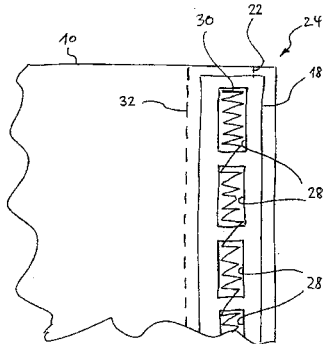
【図3】



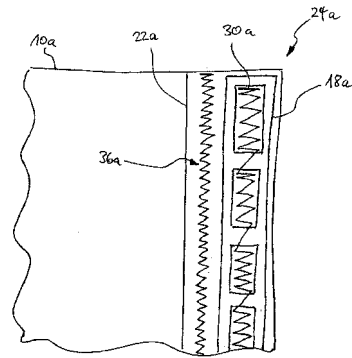
【図 4】



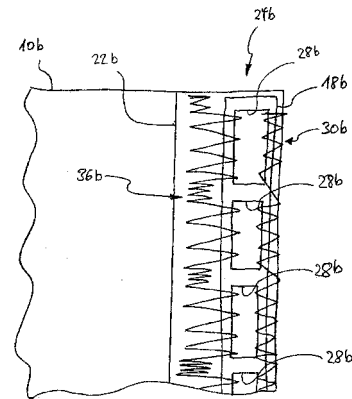
【図 5】



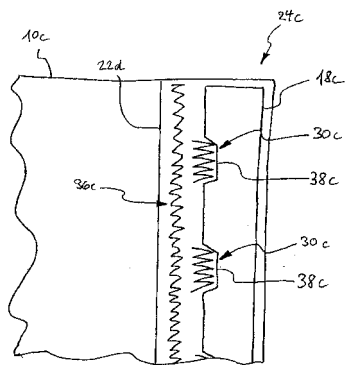
【図 6】



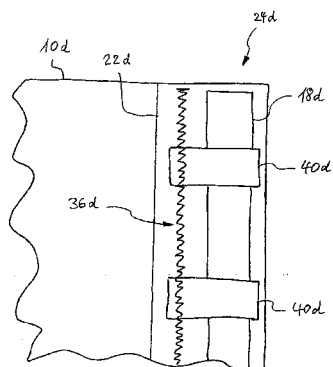
【図 7】



【図 8】



【図 9】



フロントページの続き

審査官 水野 治彦

(56)参考文献 特開平 1 1－0 1 3 3 6 5 (J P, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., D B名)

B60J 3/00